

審査結果報告書

平成 30 / 年 / 月 30 / 日

主 査 氏 名

高 桐 晶 士



副 査 氏 名

天 羽 康 之



副 査 氏 名

三 枝 信



副 査 氏 名

佐 藤 之 俊



1. 申請者氏名 : 高口 大

2. 論文テーマ : Investigation of estimated glomerular filtration rate and its perioperative change in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma: A multi-institutional retrospective study
(上部尿路上皮癌患者における周術期 eGFR とその変化率に関する多施設共同研究)

3. 論文審査結果 :

限局性上部尿路上皮癌 (UTUC) に対する治療法は、根治的腎尿管全的術 (RNU) とされている。さらに化学療法を追加する方法がとられるが、化学療法は腎機能に影響を与え、また手術により腎機能低下が認められる症例も多く、その化学療法の行う時期や適応は患者の腎機能状態によるところも大きい。本研究は UTUC の予後因子として Estimated glomerular filtration rate (eGFR) 評価の有用性と、術前化学療法の適応症例の選択について後方視的に他施設共同研究を行い、検討したものである。6 施設の共同研究であり、433 例 (腎盂癌 239 例、尿管癌 194 例) を対象とした。術前 eGFR を $>60\text{ml/min/1.73m}^2$ 群、 $45\text{--}60\text{ml/min/1.73m}^2$ 群、 $<45\text{ml/min/1.73m}^2$ 群に分け、術後腎機能は、 $<10\%$ 減少群 (normal change 群)、 $10\text{--}30\%$ 減少群 (moderate change 群)、 $>30\%$ 減少群 (severe change 群) に分け、臨床病理学的因子と周術期 eGFR と予後の関係を調査した。その結果、術前腎機能においては、severe change 群では尿管癌・切除断端陽性、リンパ管浸潤陽性と腫瘍異形度 Grade3 症例の割合が多かった。術後腎機能変化率では、normal change 群では尿管癌・切除断端陽性、リンパ管浸潤陽性と腫瘍異形度 Grade3 症例の割合が多かった。また、normal change 群、moderate change 群ではより良好な 5 年 progression-free survival (PFS) と 5 年 cancer-specific survival (CSS) を示した。術後変化率では moderate change 群と severe change 群はより良好な 5 年 PFS と 5 年 CSS を示した。以上から根治的手術を行った症例においては、術前 $\text{eGFR} > 45\text{ml/min/1.73m}^2$ 、または eGFR 変化率 $\geq 10\%$ を呈する症例がより良好な予後を示すものであることが明らかとなった。さらに、良好な腎機能を有する症例にはあらかじめ術前にも化学療法を行うべきとした。本研究は術前 eGFR、術後 eGFR 変化率と上部尿路上皮癌患者に対する根治的手術と予後との関係性を明らかにするものであり、慎重かつ厳正な検討の結果、博士の学位を与えるにふさわしい研究であると認めた。